

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士ソフト汐留ビル	階数	地下1F、地上9F
建設地	東京都港区	構造	SRC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	
敷地面積	2,545 m ²	作成者	
建築面積	2,126 m ²	確認日	
延床面積	20,284 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 59% (81 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 59% (81 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 59% (81 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境 (スコア= 3.8)

音環境	3.6
温熱環境	3.9
光・視環境	3.4
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能 (スコア= 3.9)

機能性	3.5
耐用性	4.3
対応性	4.0

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア= 4.1)

生物環境	4.0
まちなみ	4.0
地域性	4.5

LR のスコア = 4.2

LR1 エネルギー (スコア= 4.8)

建物外皮の	4.5
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	5.0

LR2 資源・マテリアル (スコア= 3.9)

水資源	3.8
非再生材料の	4.1
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境 (スコア= 3.8)

地球温暖化	4.6
地域環境	3.7
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項	
総合 ・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。	その他 -
Q1 室内環境 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 ・高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。 ・免震装置を採用している。
LR1 エネルギー ・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 ・主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性の確認が可能である。	LR2 資源・マテリアル ・再利用可能なユニット部材や躯体に高強度材料を採用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。
Q3 室外環境 (敷地内) ・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。	
LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を設けず、建物からの大気汚染物質発生に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される